

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人格を尊重し、地域の中で穏やかに生活していただく事を目標とした理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホーム内に掲示したり、毎朝の申し送り時に皆で唱和したりと、理念を職員全体で共有し、その実現に向けて努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	来訪時、目に付くように玄関前に理念・理行を掲示している、理念の実践である日々の様子を「せせらぎ便り」として地域や家族に配布し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の散歩時や出勤時に挨拶をするように勤めている。散歩の時に顔見知りになった近所の方がお花を届けてくれる等、ご近所との交流ができている。また併設の「ふれあい会館」で催しがある時には地域の方をお誘いしたり、会館を開放し 地域の方々の様々な活動に利用していただいたりもしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内清掃などの地域活動や、花火大会・新年会などの行事に積極的に参加している。また地域の学校祭やコンサートに出掛けたり、保育園の園児らとの交流会も行っている。運営推進会議には町内会の方にも参加していただいている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議に町内会長さんや福祉部長さんに入ってもらい、地域の高齢者等の暮らしに役立つ事がないか模索している。	○	今後 地域の方を対象に「認知症サポーター講座」の開催を予定中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全体で自己評価・外部評価の重要性を認識している。そして日頃、自分達が行っているケアや活動を見直し改善するきっかけとしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的の開催し、様々な意見や知恵をいただいている。そして毎回その内容を全職員に周知させている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の研修会や集団指導に参加している。また、不明な点があれば市に相談したりと、行政との連携にも取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修会に参加し、その内容を全体会議で発表するなどしている。また成年後見制度が必要であると思われる利用者様には制度をお知らせしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止促進委員会、虐待防止委員会を立ち上げ、身体拘束をしなければならない場合には定期的に委員会を開き 家族に説明し同意をもらっている。研修会にも参加し全体会議で内容を発表している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、本人・家族に十分説明し理解していただける様に努め、要望などを聞いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様との日常会話の中から意見や苦情、不満を汲み取るように心掛けている、意見があれば管理者・職員で話し合いを行っている。また玄関にご意見箱を設置したり、面会票にも意見欄を設けている。運営推進会議には入居様の代表も参加していただき、意見を反映するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、領収書・請求書の送付時に金銭出納帳のコピーや「せせらぎ便り」を入れている。必要に応じて個別に近況報告を入れる時もある。また、電話にて報告したり、面会時に説明したりもしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に 気軽に声を掛けていただけるような雰囲気作りを心掛けている、玄関にご意見箱を設け、玄関前に内部・外部の苦情受付を貼り出している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に1度 全体会議を開き、職員からの意見を反映できるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	体調不良時など状況に応じて、勤務時間の調整や変更などを行っている。また外出行事など人手が必要な時には勤務職員数を多くしたりしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は最小限にし、馴染みの関係を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「北海道具グループホーム協議会」「旭川グループホームケア研究会」における勉強会をはじめとして、その他各種団体の勉強会にも積極的に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流会や勉強会にて親睦をはかり、ケアの向上に役立てている。 永山地域包括センターを通してのネットワーク作り、事例検討や研修会にも参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人内の親楓会や忘年会、ホーム内での歓送迎会、親睦会を実施し、交流を深めている。 また、毎月のシフト表作成の際、できる範囲で勤務の希望を聞いて反映させている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修への参加や資格取得を奨励している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には施設長・管理者が面接し困っている事や不安に思っている事などを聞いている。 また事前に見学してもらい、安心して生活していただける様に努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	御本人はもちろん、ご家族に対しても面談し不安な事や困っている事を聞き、少しでも安心してご利用していただけるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時には本人・家族の要望を聞きつつ、十分に説明し理解していただける様に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様が安心してサービスを利用できる様、日頃から顔馴染みの関係を作るように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみ、おしぼり丸めなどの家事をしている。また、入居者様から昔の生活習慣や知恵などを教えてもらいながら、ともに生活を楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会などを通じ、家族と一緒に利用者様を支えていける様な関係作りに努力している、ご家族が面会に来られた時には笑顔での挨拶を心がけ、日頃の様子を伝えていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	「せせらぎの里便り」や会話を通して日常生活の様子をお知らせし、お互いの関係がより良くなるよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしていた人間関係、社会関係を壊さないよう、外出の機会を設けたり、気軽にご友人にも遊びに来ていただけるようにしている。外泊や外出に制限は設けていないし携帯電話は持ち込みできる、ホームの電話使用の際は番号を押す等の介助もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者様同士の人間関係を把握しており、それぞれの個性や人間関係の応じた配慮をしている(食事の席や外出時のグループなど)。また会話の中で、入居者様の生活歴や趣味などをさりげなく引き出し、お互いにわかりあえるような働きかけをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院後や退所後にも必要に応じて連絡を取っている。入院先には情報提供するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく暮らしていただける様、希望を聞き検討し援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にフェイスシート等にて情報を収集している。また入居後も 御本人やご家族から情報を得る事で馴染みの暮らしを継続できる様に援助している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌や介護日誌にて1日の過ごし方を、チェック表にてバイタルや水分・食事量、排泄の有無などを把握している。また、モニタリングにて各入居者様の状況をこまめに把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを開く事で職員間の情報交換、意見交換を行なっている。また、ご本人やご家族の要望をケアプランに反映させ、入居者本位のものとなるように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にモニタリングを行ない、ケアプランや介護方法の見直しを行っている。 また、必要に応じて、ケアプランを現状に即したものに改訂している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の状況を介護日誌に記録し、カンファレンスや申し送りで情報を共有している。また それをモニタリング等に活用している。	○	今まで以上に記録内容を充実させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居様の要望に応じて、外出・外泊・家族の宿泊を受け入れる等、柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に町内会長さんや福祉部長さんに入っていただき、地域との協力体制を作っている。 また、自衛消防訓練にも地域の方々や消防に協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、訪問マッサージ、訪問理美容を利用している。 また 以前は訪問看護、訪問歯科診療も利用していた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネジャーが地域包括支援センターの研修会に参加し、情報交換などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ほぼ毎日、法人の院長や看護師長が入居者様の様子を見に来ており、毎週日曜日には訪問診療、毎月1回の定期受診も行っている。 顔馴染みの関係なので、入居者様も気軽に相談している。 異常がある時には院長に報告し指示を仰いでいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人の医師と専門医との連携や、介護職員による情報提供により、適切な治療を受けられている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保しており、日常の健康管理の支援を行っている。 また24時間連絡が取れる体制にもなっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院と連絡を取り合って、早期退院に向けて情報交換をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針は確立されており、医師も交えご家族の要望に応じる準備をしている。 実際ターミナルケアも実施している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ひとつのチームとして医師・看護師と連携しご家族の要望を取り入れつつ、変化に備えて準備をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	リロケーションダメージを防止・軽減できるよう、関係者間で情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員会議で話し合い、言葉掛けや対応等 入居者様の尊厳を守っている。写真使用についてご家族に同意書をいただく等、個人情報の取り扱いにも気を付けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常的に本人の話に耳を傾け、納得しながら生活していただける様 支援をしている。	○	今後一層、自己決定の場を多くしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを尊重し、できる限り希望に添って暮らせるように支援している。	○	声にならない思いも受け止められるような支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	天候や気温によりアドバイスする事はあるが、基本的にご自分の着たい腹を着ていただいている。 自分でお化粧されている方もいる。 月に1回程訪問美容室をお願いしているが、馴染みの理・美容室がある方はそちらに出かけている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人が出来る事、出来ない事を把握し、職員と一緒に準備や後片付けをしている。好き嫌いのある方には替わりの物を用意している。鍋やホットプレートを囲んだり、出前を取ったりすることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	居室への冷蔵庫の持ち込みは遠慮していただいているが、台所に入居者様用の冷蔵庫を用意しているので、そこに飲み物やおやつ・果物などを保管し、日常的に楽しんでいる。タバコ・お酒は現在 希望者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、随時トイレにお誘いするなどしている。日中と夜間の対応を変えたりもしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日はこちらで設定させていただいているが、できるだけ希望にそえるようにしている。入り方やお湯の温度などはご本人の好みに合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣を考慮し、1日の中で必要な時に休んでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、個々の楽しみに合わせた対応をしている。買物・散歩・日光浴・畑仕事・縫い物・カラオケ・洗濯物たたみ等をしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	何名かの入居者様が日頃からお金を所持している。 その他の方も能力に応じて外出や買物の際に、ご家族からお預かりしているお金をお渡しし、支払いを自分で行えるような支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物・美容室・銀行・ドライブなど、その時々に対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事で美瑛や神居古譚、キトウシ森林公園などへドライブに行ったり、ご家族との外出・外食の支援をしたりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたい利用者様にはホームの電話を使用してもらい、出来ない部分は支援している。手紙を出したい利用者様には職員が預かり投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は設けておらず、いつ来ていただいても大歓迎である、。いつも笑顔で対応するようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止促進委員会を設置、身体拘束は原則禁止している、どうしても やむを得ない時には、その理由を明確にし、ご家族の同意を得るなど、厳格な規程を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上の理由から玄関に鍵をかけているが、日中は常時開放している、。居室の鍵は利用者様が自らかける事はあるが、職員がかける事はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は2時間おきに巡回し安否確認をおこなっている。また日中も、職員が居室を訪問して会話しながら、さりげなく様子を観察している。ドアによりチャイムの音を変える等の工夫もしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの心身状況に応じて居室に置いたり、こちらで預かったりしている。針・ハサミを使用する時は職員が見守り、一緒に行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	申し送り・管理日誌・連絡ノート・会議等で全職員が一人ひとりの状況を把握し、事故防止に取り組んでいる。地域ネットワークにも取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護師の指導の下、心肺蘇生法やAED(自動体外除細動器)の使用法を学んでいる。	○	前回の講習より期間があいたので、今後定期的に行ないたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方々の協力も得て、年2回避難訓練を行っている。緊急連絡網には地域の方や家族会の方にも入っていただいている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに現状の説明を行ない、心身状況が変わってきた時には、都度連絡、説明を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックを毎日行っている。また、体調の変化や異変を発見した時には速やかに看護師や医師に報告し、指示を仰いでいる。職員間でも管理日誌や介護日誌で、申し送りなどで情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が一人ひとりの薬を理解し、2重3重の確認をしている。服薬による症状の変化は、都度医師に報告しており、薬の変更・中止がおこなわれている。	○	副作用については全職員が理解したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排尿・排便チェックは毎日行ない、水分補給や身体を動かす等、その方に合った対応をしている。便秘ぎみの方には日頃から「強力わかもと」の服用を勧めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを行なっている。一人ひとりの口腔内の観察をすると共に、その方の状況に応じて支援をおこなっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の作った献立にしたがって、体調や好き嫌いを考慮しながら調理し、食べやすい大きさにしたり、量を調節したりと、都度工夫している。また脱水にならないように、お茶などを勧め、摂取量をチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防と対応のマニュアルがある。インフルエンザや肺炎球菌ワクチンの予防接種の実施、包丁・まな板の消毒殺菌、うがい・手洗いの励行など、医療面や生活面で気を付けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	栄養士が食材を用意・管理している。食中毒予防の為、毎日調理器具の消毒殺菌を行っている。また 生肉や生魚に使用した包丁・まな板は使用後すみやかに消毒殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手すりやスロープを設けており、安全に出入りできる様になっている。 外の花壇に花を植えたり、玄関に植木鉢を置いたりして、明るい雰囲気作りを心掛けています。 また玄関前には掲示板を設け、地域の方々に催し物をお知らせしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、行事予定表に季節感を出す工夫をしている。 毎日の掃除で衛生面に気を配り、居心地良く過ごせる様 全職員で努力している。 施設全体に窓が多く 明るい日差しが入るようになっており 窓が低いため 外の景色も見えるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファや畳があり、それぞれの好きな場所で、思い思いに過ごしている。また おたがいの居室を歩き来している入居者様もいる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのものや使い慣れた家具などを持ってきている。写真・ポスター等 本人の好きな物を飾ったり、仏壇を置いたりと自宅と変わらない様子にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室や廊下に温度計を設置し、個々の入居者様に合わせた温度調節をしている。また 掃除の時などを利用して、窓を開けたり、換気扇を回したりと キレイな空気を居室に入れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体がバリアフリーになっており、廊下、食堂には手すりを設置している。 また、食堂の椅子は体格に合わせて2種類の高さを用意し、テーブルも若干低めにしている。 トイレも3種類の高さを用意し安全に使用できるよう、手すりはもちろん ファンレストテーブルの設備もある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ・お風呂・居室の場所がすぐわかるように、表札や暖簾などを工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭や畑にお花や野菜を植えたり、その周りにベンチやテーブルを置いたりしている。そのため、ベンチでひなたぼっこをしたり、花を眺めたりできる様になっている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族 ☐ ②家族の2／3くらい ☐ ③家族の1／3くらい ☐ ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

・ふれあい会館を併設しているので イベント等に町内の方にも参加してもらっている。 ・町内の一人暮らしのお年寄りに、町内会長さんや福祉部長さんと一緒に安否確認をかねてイベントのチラシを配っている。 ・24時間いつでも主治医との連絡が取れるように連携体制ができていますので 医療面での不安が少ない。 ・グループホームケア研究会を作り、他グループホームとの交流や研修会を行ないケアの質の向上に努めている。